



一石二鳥を狙う習近平

プーチンは第二次大戦での対独戦勝記念日にまるで、NATO諸国がロシアに戦争を仕掛けたかのように演説。

習は、そこで、ロシアに非があるとは云わず、ロシア軍の撤退にも触れていない。

この状態での和平提案とは、ロシアが占領した地をロシア領として平和条約を結ぶと云うこと。

「我々の祖国に真の戦争が始められた。米欧の野心や傲慢がウクライナ国民の悲劇を招いた」と。

これは太平洋戦争前の旧日本の言い草に似ていませんか？当時、旧日本軍は中国を侵略したものの行き詰り、国際的な非難を浴びた。米国からは石油の輸入を止められた。

自らの中国侵略を止めるのではなく、石油を止めた米国他を悪者として、A B C D(米英中蘭ハオランダ)包囲網打破として各国と戦争を始めたのです。

国連憲章で戦争は禁止されているのに、プーチンが戦争で奪った領土を認める事になる。

南シナ海ではベトナムやフィリピンが領有していた島を中国は軍事占領し、埋め立てて、飛行場も作っている。

ロシアのウクライナ侵略が認められれば、南シナ海での中国の軍事占領も認められよう。

その上で、「ウクライナとロシアの平和を立て役者であるかのように振る舞える。

習としては一石二鳥のうまい話だ。

こうした局面で、習近平は和平を提案した。

あなたは どう思われますか？

竹富島の石垣

沖縄県八重山郡竹富町竹富

二〇二三年四月



彼方からやって来るのは水牛車。ゆったりと進み観光客と竹富島をめぐる。

水牛は一九三〇年代に台湾からの移民によりもたらされたそうだ。和牛よりずっと大きな体格で農耕に力を発揮したという。

道の両側には珊瑚から出来た琉球石灰岩を積み上げてある。雑に見えるが、でこぼこをかみ合わせてしっかりとした塀となっている。

そして赤瓦。本州では台風で瓦が飛ばされることがある。台風に慣れているこの地域では、瓦をセメントで固めてあり、台風で飛ばされることは無い。

左の方に茎を長く伸ばしているのはクリスマスシーズンによく飾られるポインセチア。植えっぱなしにしていると、このように大きくなるという。

